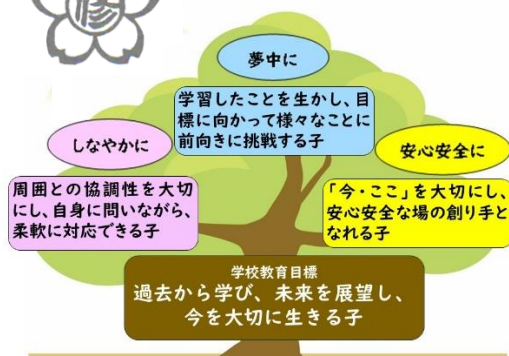




たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校

令和7年 4月25日
京都市立修学院小学校
校長 鎌田 賢二



校長室だより「こころ」NO.32

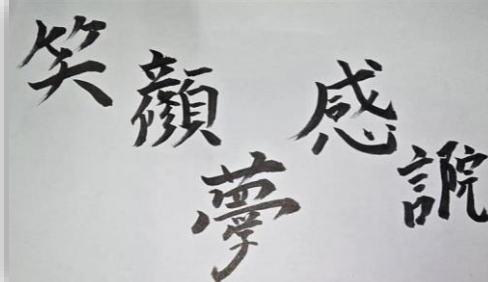
過去から学び、未来を展望し、今を大切に生きる

4月10日に92名の新入生を迎え、令和7年度が始まりました。今年度は2年間進めてきた学校教育目標を「過去から学び、未来を展望し、今を大切に生きる子」にかえて学校教育活動を進めていきます。いつの時でも「今」「ここ」を大切にしながら生きていくことは大人になった

「今」「ここ」でも同様です。学校教育目標は子どもだけでなく、修学院学区の地域や保護者そして教育していく教職員に思いを馳せながら想像力を働かせて考えています。子どもの人格形成や人間力を高めるのは教育だけでなく、保護者の子育てや地域の行事、学区に住む様々な人の力があってのことだからです。校長室だよりで少しずつ学校教育の目標への想いを話していきます。今回は「過去から学ぶ」です。過去から学ぶのは、自分の現在地（自分の周りの状況、考え方、習慣など）を把握するためです。自分の現在地を把握できていないと未来展望が難しくなります。具体的に少し違った視点でお話しします。例えば日本の中で行ってみたいところがあったとしましょう。地図を広げます。「沖縄にいきたい（未来や目標）」と思いました。それだけでは行けません。なぜなら自分がいる場所（今）がわかっていないからです。自分のいる場所（京都）がわかることで沖縄がどの方向にあるのかがわかります。（未来）自分のいる場所がわかっていても自分の状況がまだ把握できていないので本当にいけるかわかりません。どれだけの予算があるのかどんな交通手段があるのか行くために何が必要になってくるのかなどは過去から分析します。その状況がわかって現在地が明確になると沖縄に向かうための行動が生まれます。私の例でいうと「大学生のときは休みがあるけど飛行機にのるのに予算がない。」→「お金を貯めたいからバイトをする。」ということで行動にうつります。というように現在地と行きたい場所が決まれば、あとは目指す方向に最適と思われる行動につなげることができます。

このように未来展望も同じように考えられます。子どもたちは純粋でテレビや現実に見たものや周りから聞いたことで憧れて夢や目標をもちます。そのときに現在地と一緒に探してあげることによって漠然とした行き先だけ決めて終わってしまうことはなくなります。子育てや教育についても同様です。目指す先を決めて、そのための現在地を把握し、毎日を遊び心で楽しめるようにしていきたいですね。「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉もあるので過去についての学びはまだ奥深いこともあります。

今年度初めてのお便りでやや堅苦しい話をしましたが、今年度も修学院小学校はたくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる場として進んでいきたいと思っています。保護者の皆様、地域の皆様今年度もどうぞ修学院小学校の教育活動にご理解ご協力をお願いいたします。



あなたの現在地は今どこですか？